

限らない。ここで、最高裁に提出が要求されている事件記録を見ることができれば、その中に収められている裁判手続の記録の謄本を見ることができる。これによって、公式の事件に関する記録から、推測に頼らなくとも直接に事件の経過をたどることができる。また、最高裁判所における当事者の主張は、判例集編集者による弁論の要約により知ることができる。しかし、趣意書を見ることができれば、最高裁に提示された当事者の主張の内容を直接に読むことができる。

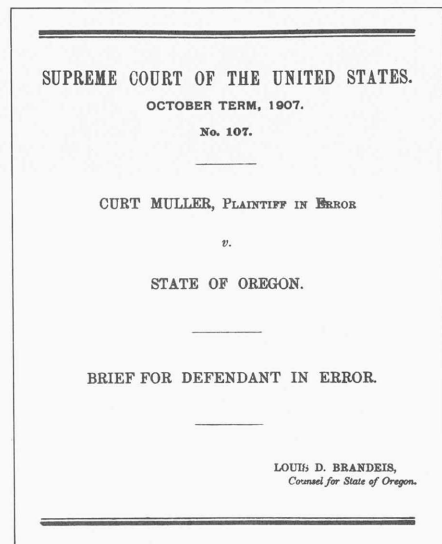
最高裁判所の判決と意見の研究には色々な方法がある。様々な事件における裁判所の法廷意見や個々の裁判官の意見を吟味して、最高裁の見解あるいは個々の裁判官の見解のよって立つところの理論を考究する場合には、判例集に現われた最高裁の判決と裁判官の意見から知ることができる事件の内容で十分研究を進めることができる。判例の理論を探る場合には、判例集に報告されている内容によってある事件の判断が先例として取り扱われるから、判例集に現われるところを見れば十分である。

このほかに、個々の事件をこまかに研究する場合には、裁判官が意見のなかで結論を説明するために述べたことのほかに研究に有益な材料があり、本資料に含まれる事件記録や趣意書はこのような研究に極めて有益な資料である。事件記録からは、その事件が第1審裁判所に提起されてから最高裁に至るまで裁判手続の記録の謄本を見ることができる。また、趣意書からは、訴訟当事者の事件の理解とその法に関する言い分を知ることができる。趣意書とあわせて、裁判官の意見を当事者の主張に対する応答としてとらえると、意見の理解を新たにすることも考えられる。

事件記録と趣意書によれば、最高裁の扱った事件について、公式判例集からは得ることができないものを手にすることができる。これらは、最高裁判所判決を社会的ないし歴史的な文脈の中でとらえるために事件を詳しく調査するという作業には有用な材料となろう。1832年から1915年の間は、南北戦争とその後の再建の期間、改革の時代といった時期を含む。この間に合衆国最高裁判所はその判決を通じて時代

の潮流の中で重要な役割を果たしてきた。本資料は、最高裁の役割を考えるという作業に有益な資料であり、活用されることが期待される。

写真



写真は、Muller v. Oregon, 208 U. S. 412 (1908)で Louis D. Brandeis (1856-1941)がオレゴン州のために作成し提出した趣意書の表紙である。これはリールの第756巻に収められている。この趣意書は全部で113ページにわたり、その中でオレゴン州の制定した女子労働者の最高労働時間を10時間と定める法律の立法趣旨が詳細に論証されている。ブランドイブは1916年に合衆国最高裁判所裁判官に任命された。

参考文献 (いずれも法学部図書室に所蔵されている)

The Oliver Wendell Holmes Devise History of the Supreme Court of the United States (New York: Macmillan, 1971-) (全11巻、一部未刊)

Landmark Briefs and Arguments of the Supreme Court of United States: Constitutional Law (Philip B. Kurland & Gerhard Casper, eds.)(University Publications of America, 1975-)

Antitrust: Major Briefs and Oral Arguments of the Supreme Court of the United States 1955 Term - 1975 Term (Philip B. Kurland & Gerhard Casper, eds.) (University Publications of America, 1979)

ご存知ですか? -文献の集め方-

参考調査カウンターに座っていて、しばしば受ける質問の一つに「○○についての本を探しているのですが、ありますか」「○○についての文献を集め

たいのですが」というものがあります。ある程度、研究分野についての知識と問題意識をもって来られる方、ただ漠然とレポート作成のためのヒントを求

めている方、利用者の求める調査のレベルもさまざまです。私たち掛員は、利用者との会話の中で、求めているものをできるだけ正確に把握し、それぞれの利用者に応じた案内をしています。

今回は、先のオリエンテーションに参加できなかった新入生や在学生の方を対象に、皆さんのレポート、卒論、研究などのために、基本的な国内文献の集め方について簡単にご紹介します。

1. 図書（単行本）資料

a. テーマで探す

あるテーマについてのまとまった研究成果は、通常ある期間を経て図書の形になります。このテーマごとの資料の探索に便利なのが、『日本件名図書目録』です。これは、国内で発行された個々の図書をそれぞれの主題を表す言葉（件名）から検索できるようにしたもので、1977年以降発行の図書について、検索可能です。これで、書名、著者名、発行年の基本的書誌データ、加えて発行所や価格も知ることができます。

この他、主題から検索できる資料としては、『国立国会図書館蔵書目録』『国立国会図書館所蔵主題別図書目録』があります。ただし、注意していただきたいのは、これは受け入れ年度による目録だということです。従って、発行年度と受け入れ年度に多少のずれがみられますので、注意して下さい。

b. 著者で探す

「○○氏の著作」という検索は、『日本件名図書目録』ではできません。著者名で検索できる目録としては『日本著者名総目録』があります。これは、1927年から1976年までに日本国内で刊行された図書および小冊子を収録したもので、書名、叢書名索引も付いています。この他、先に紹介した『国立国会図書館蔵書目録』にも、1969年以降のものには著者名索引がついています。

著作を探す以外に、「○○氏について書かれた関連資料」を探す際に有効なのが、人物文献目録です。附属図書館には、『日本人物文献目録』『年刊人物文献目録』『人物書誌索引』等があります。

また、特に大学等の研究者の著作・代表論文を探すツールとしては、『研究者・研究課題総覧』があります。これは、学術研究機関に所属する研究者の研究活動を分野ごとにまとめたもので、各分野の専門家・研究者とその著作がわかります。

c. 入手方法

上記の方法で求める資料を特定すれば、次はその資料の入手方法です。まず、京都大学内の所蔵を調べましょう。図書館の入り口すぐのところ目録カード室があります。ここでは、附属図書館だけでなく、学内の全ての部局の蔵書が検索できます。和書については書名カードと著者名カードがあります。書名カードは昭和39年を境にして、旧カードと新カードの2つのかたまりに分かれています。また、このカードは、現在ほとんど追加されていません。新しく図書館に納入された本の情報は、全てデータベースに登録されていますので、端末からオンラインで検索します。

オンライン検索が可能な資料は、現在京都大学全蔵書冊数約500万件のうち、1割に満たない約30万件です。従って、新しい刊行年（具体的には1991年以降発行）の資料を探す場合ならオンライン検索だけでも結構ですが、それ以外の大部分の資料は必ずカード検索とオンライン検索の両方を行う必要があります。また、このカードの年度も、受け入れ年度による区分ですので、その点十分注意して下さい。従って、昭和39年以前に発行された図書の所在を知るためには、旧目録カード、新目録カード、オンライン検索の3種類の目録検索をする必要があります。

これらの目録類の検索によって京都大学の所蔵と判明した場合は、必ず部局名と請求記号を控えておいて下さい。請求記号とは、図書のそれぞれにつけられた住所のようなもので、通常カードの左上のほうに表示されます。附属図書館以外の部局の所蔵となっているものは、直接該当部局の図書室の閲覧規程に従って利用して下さい。

もし、大学内に所蔵されていない場合は、参考調査カウンターまでお越し下さい。現在、国内の主な図書館の所蔵情報は、オンラインネットワークにより調査することも一部可能です。他の国立大学に所蔵されている場合は、図書館間相互貸借（ILL）サービスにより図書を借りることが可能です。

図書を購入したい場合は、該当のものが現在市販されているかどうかチェックする必要があります。これを知るには『日本書籍総目録』を調べます。これは、現在入手可能な資料の目録です。書名と著者名双方からの検索が可能です。



2. 論文(雑誌)資料

a. 検索方法

ある分野についての新しい研究成果は、通常論文の形をとり雑誌に掲載されます。こうした論文記事資料の検索には『雑誌記事索引』を利用します。これは、国内発行の主な学術雑誌に掲載された論文を、主題ごとに分類、整理したもので、3ヶ月ごとに発行されます。巻末には著者名索引と収録対象の雑誌のリストが付いています。人文・社会編と科学技術編の2つの分野に分かれています。人文・社会編には1948年以降、5-10年ごとに累積索引版が発行されているので、便利です。これにより、論文名、掲載雑誌名、巻号、年がわかります。

この他にも、前述の『日本人物文献目録』『年刊人物文献目録』『研究者・研究課題総覧』にも、雑誌論文が収録されています。

b. 入手方法

まず、該当の論文を収録した雑誌の所在を調べます。京都大学内の雑誌の所在については、図書と異なり、オンライン検索でそのほとんどを知ることが

できます。細かい教室名まで表示されますので、所蔵部局の図書室をご利用下さい。該当の雑誌がない場合や論文掲載号がない場合は、『学術雑誌総合目録』をお調べ下さい。全国の大学等研究機関所蔵の学術雑誌や新聞が掲載されています。所蔵館がわかれば、図書館を通じて文献複写の申込が可能です。詳しくは、相互利用カウンターでお尋ね下さい。

以上、最も基本的な国内文献資料の集め方について紹介しました。これ以外にも、図書館には二次資料といわれる様々な文献資料目録があります。求めるテーマの資料を探しだし、そこからまたその資料に挙げられている参考文献にあたっていく、という作業を繰り返すことによって、芋づる式にそのテーマについての資料を集めていくことができます。

また、カウンターに所蔵調査を依頼される場合には、調査を確実に迅速なものにするためにも、こうした目録類で書誌事項(書名、著者名、出版社、出版年など)をきちんと確かめていただくをお願いします。(参考調査掛)

お知らせ

新聞ラウンジに禁煙コーナーができました

禁煙にしてほしいとの要望が多く寄せられておりました新聞ラウンジを、8月2日より禁煙と喫煙のコーナーに分割しました。実施して2ヶ月ほどになりますが、すでに利用者の方からご好評をいただいております。愛煙家の方は、喫煙コーナー(カード目録コーナー側)をご利用下さい。ご協力のほどよろしくお願い致します。(資料運用掛)



新規登録図書の冊子体目録ができました

昨年、本学所蔵図書の冊子体書名目録(平成4年8月1日現在)を作成しましたが、それ以降に受け

入れた図書を書名順にリストした冊子体目録(平成5年7月末現在)を新たに作成しました。ご利用の際には、ご面倒ですが両方の冊子体目録を検索して下さい。これらの目録は、目録データベースに登録されている図書を収録したもので、端末が使えない土曜日や午後6時(通常)以降に、図書検索を行うためのものです。探している図書が見つからない場合は、必ずカード目録も検索して下さい。

(和書目録情報掛・洋書目録情報掛)

展示会を開催します

平成5年度の展示会を、「京洛出版の軌跡—五山版、古活字版、八文字屋本—」(仮称)と題して、12月1日(木)から10日(金)までの日曜日を除く期間、本館3階の展示室にて開催します。京都では、中世の頃から出版がはじまり、江戸中期頃まで江戸、大坂を引き離し優位に立っていました。

今回は五山版の仏書から八文字屋本の絵入り狂言本まで本学が所蔵する貴重な書籍を展示します。例年どおり一般の方も入場(無料)できますので、お問い合わせの上ご来場下さい。(雑誌・特殊資料掛)